

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和4年6月30日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシアにおける言語接触・言語圏に関する共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	野町 素己	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	岡野 要	神戸市外国語大学外国語学研究所・客員研究員	スラヴ語学
	研究テーマ		
	南スラヴ語の開始表現に見られる意味変化と文法化の程度に関する対照研究		

研究成果の概要

班員の岡野は、南スラヴ語の開始表現に見られる語彙動詞の位相動詞化について、文法化の観点から研究を行った。具体的には、もともと「動く」の意味を表す動詞 *krenuti* — *kretati* が後ろに動詞不定形または「da+現在形」を伴う環境で「～し始める」という開始の意味を表す事例を取り上げ、ヴク・カラジッチの『セルビア語辞典』前後の文学作品等から現代までの言語資料を分析し、この構造がいつ頃から現れ、移動の意味から開始の意味へと変化していったかを調査した。また、この構造が現代語においてどの程度文法化されているかを、文法化理論に照らし合わせ、ほかの分析的な述語を作る動詞の状況と比較を行った。研究成果の一部は、2021年8月に開催された ICCEES World Congress 2021 において口頭発表として公表し、現在はこの発表以後に入手した最新の文献などを検討しながら、これまでの研究成果を論文として公表する準備を進めている。このほか、同じく開始の意味を表す際に用いられる動詞 *uzeti* — *uzimati* 「取る」についても先行研究を中心に調査を進め、セルビア語における分析的な位相述語の状況と地域的に連続し、同じまたは意味的によく似た動詞が分析的な位相述語に現れるほかの南スラヴ語の状況についても予備的な調査を行った。コロナ禍の影響により現地での資料収集や調査ができなかったが、今年度行った予備調査をもとに2022年度以降調査を続けていく予定である。

担当者の野町は、コロナ禍で予定していた現地調査は実現できなかったが、今後の研究活動への展開も考慮に入れ、代替の研究活動として、当該領域における意見交換を目的に、以下に挙げる世界のトップクラスの研究者を招いたオンライン研究会の組織した（2021年4月30日：Tomasz Kamusella、6月24日：Milan Mihaljevic、7月1日：Alexander Maxwell、7月21日：Tat'jana Vendina、9月9日：Katja Brankackec、9月27日：Arto Mustajoki、10月8

研究成果の概要（続き）

日：Bridget Drinka、10月27日：Laura Janda、11月15日：Elena Berezovich、11月29日：Derek Offord、12月2日：Markus Giger、2022年1月6日：Brian Joseph）。題目等の詳細はスラブ・ユーラシア研究センターのウェブサイトの該当箇所を参照のこと <https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/src/2021.html>）。

この他、ロシア学士院スラブ学研究所と共同で、スラブ系ディアスポラの言語問題について、地域言語学の観点から論じるオンラインセミナーを組織（2021年6月17日：<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/index3.html>）し、またブルゲンラント・クロアチア語の統語論の地域的特徴についての分析結果を開陳した。続いて、ロシア学士院準会員で古代ロシア言語文化研究の権威である Aleksej Gippius 氏を招き、古代ノブゴロド文書の最新研究に関して多角的に討論を行った（12月22日：<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/index3.html>）。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

学会発表（すべて謝辞なし、オンライン開催）

1. Okano, Kaname. „Serbian Motion Verbs *krenuti – kretati* ‘move; depart’ in the Light of Grammaticalization Theory.“ ICCEES World Congress 2021, (2021.8.3)
2. Nomachi, Motoki. All you need is Slav: Avram Mrazović’s idiolect and the polyvalency of Church Slavonic, *Современные методы изучения сербского языка в синхронии и диахронии*, Lomonosov Moscow State University, Moscow (2021.5.17)
3. Nomachi, Motoki. On a particular usage of the locative and accusative cases in Burgenland Croatian, *Current Trends in Slavic linguistics*, Institute of Slavic Studies of the Russian Academy of Sciences, Moscow (2021.6.17)
4. Nomachi, Motoki. Changing (linguistic) identity among the Kashubs in Canada. The 10th World Congress of ICCEES, Montreal (2021.8.4)
5. (with Johan van der Auwera) Connective negation and negative concord in Balto-Slavic. The Slavic Linguistics Society 17th Annual Meeting, University of Illinois Urbana-Champaign, Indiana (2021.9.4)

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

特になし。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。